

# 【クレーム情報】

## 天然皮革の生体時のキズ

先月号では、皮革飾りからの色泣きと皮革の染色が堅ろう性に欠ける要因を紹介した。今回は、先月号に引続いて、動物から剥いだ皮を利用することによる皮革製品に特有のトラブルを紹介する。

### 原因

生体時の血管などの跡が傷のようになっていているもの。このような傷は、動物から剥いだ皮を利用する天然皮革製品に特有の現象だが、気付かないままクリーニングされた後でトラブルになることがある。

### 事故の防止対策

製品を製造するメーカーは欠陥のある素材の使用を避けることが基本。天然皮革製品を受け付ける際は、このような傷が明瞭になる可能性があることを顧客に伝え、了解を得た上で処理すること。

### 皮革製品を取扱う際の留意事項

繊維製品とは全く異なる天然皮革の特性や問題点を十分に理解して、受付で入念なチェックを行うことや、顧客に対してはクリーニングの結果として生じる可能性のある問題点を伝えた承を得ておくことなどの配慮が必要となる。

### 受付での主なチェック項目と顧客への伝達事項

- ・天然皮革製品は、個体や裁断する部位の異なる皮革を集めて1着の縫製品とするため、縫い目を境にして色や風合いに違いの生じることがある。
- ・スエードの場合には、縫い目を境にして毛羽の状態に違いが生じることがある。

- ・生体時の血管の跡や皮膚病、けがの跡、ダニに刺された跡などがクリーニングで明瞭になることがある。
- ・著しい汚れや固着した汚れ、シミやカビなどは除去できないことがある。

- ・クリーニング前には、目立たなかったシミや目に見えないシミなどがクリーニングすることで浮き出てくることもある。

### 皮革と布帛を組み合わせた衣料品のクリーニング

天然皮革と布帛では本来その取

扱いが異なることから、ウインドブレーカーなどに代表されるような皮革と布帛を組み合わせた衣料品は一旦全体を解体して、皮革と布帛を切り離して別々に処理することが理想。それができない場合には皮革と布帛の構成割合に応じてどちらかを主体にしたクリーニングを行うことになるが、顧客にはあらかじめ皮革と布帛の両方を満足させるようなクリーニングはできないことを了解してもらうことが必要。

### 事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」で天然皮革製品に関する事故を検索すると、10月6日現在で登録されている事故情報は44件。このうち今回紹介したような皮革の特性による自然発生的なクレームは9件あり、皮革に特有の様々な変化を顧客に理解してもらうための情報として、十分に活用できるものと思う。

クリーニング事故防止システムの利用には、日本繊維製品・クリーニング協議会への入会が必要です。詳細は、日本繊維製品・クリーニング協議会事務局にお問い合わせください。

TEL. 03 (5362) 7201



ベージュ色のスエードのスカート。  
動物の生体時のものと思われる、引っ掻いたようなキズ跡がある。

- 品 名…スカート
- 素 材…天然皮革（スエード）。四角形に裁断した皮革を縫合して一着のスカートに仕上げている。
- 取扱い絵表示…なし
- 処 理 方 法…石油系溶剤でのドライクリーニング。
- 事故の状態…スカートの裾部分に使われている皮革生地に、引っ掻いたような傷が生じている。